

核兵器をなくすために 一人ひとりができること

「ヒバクシャ国際署名」へのご協力をお願いします。



A子さん
生協組合員。最近生協の学習会や企画によく参加している。



B子さん
2歳の女の子の子育て真っ最中のママ。家族そろってごはんを食べる時が一番幸せ。



C子さん
会社員。来年出産を控えて生まれる子のために社会のことを色々考える毎日。

A子 「ヒバクシャ国際署名」って知ってる？これなんやけど、被爆者の方たちが核兵器をなくすことを願って、世界中に呼びかけているらしいよ。

B子 聞いたことあるよ。国連でも核兵器を禁止する話し合いしてるよね？核兵器が使われたら日本も巻き込まれるかも。子どものためにも核兵器はなくなしてほしい。

C子 署名に「国連に届ける」って書いてあるね。わたしも核兵器はなくなしてほしい。でも、署名ってどれくらい効果あるのかな？わたしが署名してホンマに核兵器なくせるのかなあ？

A子 国連には世界中からの核兵器禁止を求める署名が積み上げられてタワー（※）になってるって生協の学習会で聞いたよ。この署名も国連に届けられるし、世界中から反対の声が集まったら大きな力になると違うかな。

そうそう、京都に住んではる被爆者の花垣ルミさんもこの署名呼びかけてはるし、一緒に話を聞きに行かへん？

高校時代の仲良し同級生3人。
久しぶりに会っておしゃべり中です。

この面を内側に2つ折りにして提出してください

← 中面をご覧ください



ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える 核兵器廃絶国際署名

被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

私は被爆者の訴えに賛同して署名します

| 氏名 | 住所 |
|----|----|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

署名の書き方

- ◆署名は国籍、年齢を問わずにいただけます。
- ◆フルネームで記入してください。住所・氏名は「同上」「〃」は不可です。
- ◆住所は都道府県から市区町村名、町名までで番地の記入は不要です。
- ◆署名は原則1人1回です。すでに済まされた方はぜひ周囲の方にも協力を呼びかけてください。1枚の記入が5人未満でも構いません。
- ◆こ記入いただいた個人情報、ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名以外には使用しません。

署名用紙はコピーして使えます。
(この署名は、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)を通じて国連に提出します)



(※)国連総会議場入口に設置されている「核兵器廃絶を求め署名」のタワー



〈取り扱い団体〉
〒604-0857
京都府生活協同組合連合会 京都市中京区烏丸通二条上る蔭絵屋町258番地コープ御所南ビル4階
TEL:075-251-1551

被爆者は 核兵器廃絶を 心から求めます

人類は今、破壊への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器・化学兵器について、使用・開発・生産・保有を条約、議定書などで禁じてきました。それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表

- 坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三【以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員】
- 田中熙巳【日本被団協・事務局長】、郭貴勲【韓国原爆被害者協会・名誉会長】
- 向井司【北米原爆被害者の会・会長】、森田隆【ブラジル被爆者平和協会・会長】
- サーロー・セツコ【カナダ在住】、山下泰昭【メキシコ在住】

<この署名は、国連に提出します>



を体験しないように、
しています。

京都在住の被爆者・生協組合員 花垣ルミさんのお話

1945年8月6日8時15分、アメリカの爆撃機B29 エノラ・ゲイが広島に原子爆弾を投下。私は5歳でした。地面がフワツと浮いて、熱波に襲われ、建物が爆音を立てて壊れました。あちこちで火災が発生し、二階で遊んでいた私は家具のクサビが頭に刺さり、庭で洗濯をしていた母は弟をおぶったまま木の根元に飛ばされ、祖母は寝ていたベッドごと壊れた窓際でとまっていました。



花垣ルミさん

の活動で「広島島の慰霊式典」に参加。その報告書を書いている最中に、突然あの時の記憶が戻り始めたのです。とても苦しく、思い出さなければよかったと思っただけもありました。でも、二度とこんな経験を誰にもさせてはほしくないという思いも強くしました。その後、2005年の「NPT再検討会議」に被爆者のお手伝いの役割で参加し、ニューヨークの高校での被爆者証言活動をした時に、B29 エノラ・ゲイの関係者を祖父に持つ1人の女子高校生が来しました。証言を聞いた彼女は「原爆の投下は戦争を早く終わらせるためと教えられた。生き残った人たちがこんな目にあっているとは誰も教えてくれなかった。どうしたらいいの？」と泣き叫びました。証言をした男性も泣いていました。被爆者だけではない。この女の子のような思いも二度と誰にもさせてはほしくない。私はこの時の「どうしたらいいの？」の言葉を大切に日本に持ち帰りました。

2016年4月、被爆者は、核兵器廃絶国際署名「ヒバクシャ国際署名」の取り組みをスタートしました。私たちの最後の力を振り絞って、世界のすべての国、すべての人に核兵器廃絶を訴えています。どうか、多くの方に協力頂きますようお願い申し上げます。



花垣さんのお話を聞いた3人は…

- A子** 広島・長崎の被爆者は平均年齢が八十歳を超えて、「自分たちが生きている間に何としても核兵器をなくしたい」という思いなんやね。この署名に協力することは核兵器をなくしたいと願う世界中の人と力を合わせることを思う。
- B子** 核兵器は二度と使ったらあかんわ。被爆者の方たちの署名への気持ちがよくわかった。核兵器をなくすために、友達にも署名頼んでみる。
- C子** そうやね。こんな思いを子どもたちにはさせたくない。わたしらの署名が国連に届けられて、核兵器禁止の後押しをするってことやね。わたしもできるだけ協力頼んでみる。

